

すき くわ 勤と鉄

2023年度 第二号

○農業推進係、東部普及指導第一係、同第二係
〒527-8511 東近江市八日市緑町7-23
TEL 0748(22)7727・7728
FAX 0748(22)1234

○西部普及指導係
〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL 0748(46)6504
FAX 0748(46)7411

イチゴ新品種「みおしずく」の本格栽培が開始!

滋賀県では、平成28年から5年の歳月をかけて、県で初めてとなるイチゴ新品種を育成し、令和3年に「みおしずく」と名付けられました。この品種は、大粒で明るい赤色をしており、フローラルな香り、適度な酸味により甘さが際立つ味わいが特徴です。

「みおしずく」は令和4年のプレデビューを経て、今年度から本格的に生産・販売が始まり、管内では県内栽培面積の1/3となる約0.7haで栽培されています。

当課は、東近江地域「みおしずく」生産者を対象に現地指導や栽培研修会を通じて、収量と品質の安定確保を図っています。「みおしずく」は、炭疽病への耐性を持ち、摘花等作業の省力化が期待できる品種で

すが、生育が旺盛で、品種本来の力を発揮するためには特性に合わせた栽培管理が必要となります。

今夏の酷暑により、収穫時期が遅れることが心配されましたが、生産者の熱心な栽培管理と当課の支援の結果、12月上旬から収穫することができました。

収穫された「みおしずく」は、県内の量販店を中心に販売されていますので、店頭でお見かけした際は是非御賞味ください。



販売記念イベント(R5.1)



「みおしずく」栽培研修会



販売パッケージ

P2 気候変動に対応した力強い米づくりを目指しましょう!

P3 <切り枝・切り花> 人気の組花素材を栽培しませんか?

P4 「子実用とうもろこし」の栽培、獣害対策「楽落くん」の紹介

気象変動に対応した力強い米づくりを目指しましょう!

令和5年産の水稻は、梅雨時期の日照不足による穂数の減少や夏季の高温による登熟不良によって収量および品質が低下しました。今後も、豪雨や記録的な高温など異常気象が発生する可能性があります。

今一度、安定した収量・品質を確保するため、次のポイントを参考に栽培管理を見直し、気象や土壌条件に応じた米づくりを実践しましょう!



発生した白未熟粒

収量・品質向上に向けた栽培管理ポイント

(1) 土づくり

年内に稲わらのすき込みを行うとともに、たい肥や緑肥などの有機物投入や土壌改良資材の施用により地力向上に努めましょう。

あわせて、深耕により作土層を拡大し、根の伸長を促しましょう。

(2) 水管理

登熟後半まで稲体活力を維持するため、各生育ステージに合わせた水管理を実施しましょう。

① 出穂前後各3週間は湛水管理で白未熟粒の発生抑制と籾の充実を高める。

② 収穫作業に支障のない限り収穫直前まで入水する。

③ 目標茎数の8割に到達したら中干しを行う。

(3) 適正な籾数確保

生育初期に茎数が過剰になると籾数が多くなり、生育後半の栄養不足で品質が低下します。

一方、籾数を極端に抑えると収量低下につながります。

品種に応じた適正な栽植密度や細植え(3~4本/株)による適期移植の実践などにより、適正な籾数(穂数)の確保に努めましょう。

(4) 施肥管理

高温下では、登熟後半に栄養凋落を起こし、収量や品質の低下を招きます。

出穂期頃に葉色が薄い場合は実肥(1~2Nkg/10a)を施用し、稲体活力を維持しましょう。

生育の良いところ、悪いところが一目でわかる!? 人工衛星を活用したリモートセンシング

近年、スマートフォン等からほ場状況を把握することができる「リモートセンシングシステム」が注目されています。その中でも、簡易かつ迅速にデータを活用できる「ザルビオ®フィールドマネージャー」(BASFジャパン(株)提供)に取り組まれる方が増加していますので、機能の一部を紹介します。

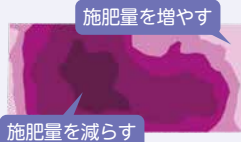
「ザルビオ®フィールドマネージャー」は、AIが衛星画像を解析し、ほ場の地力や生育の偏りを把握することができます。さらにそれらのデータを活用し、地力や生育量に応じた可変施肥ができ、作物の安定生産が期待できます。今年度当課では、実証ほを設置し生育の把握や可変施肥の効果について検証しています。御興味のある方は当課までお問い合わせください。



スマートフォンから確認可能



生育マップ



可変施肥マップ



対応した農機で可変施肥マップを読み込むと、自動で施肥量が調節される

可変施肥田植機

<切り枝・切り花> 人気の組花素材を栽培しませんか？

【ユーカリ】 定植:5月、収穫:翌年の11月～

ユーカリは、ブライダルブーケや会場装飾、クリスマスのリースやスワッグ等、フラワーアレンジの様々な場面で人気の切り枝で、その需要が大きく伸びています。特に近年では、ホームユース需要の高まりとともに花のサブスクリプション(定期便)が好調で、ユーカリはなくてはならないグリーン組花素材として定着しています。現在、東近江地域で栽培されたユーカリは生花市場を通じて関西の花屋さん等に供給されています。他産地の出荷が少なくなる年明け以降を狙った作型を中心に生産・出荷が拡大中です。



ミニブーケ



箱詰めされたユーカリ



ユーカリ栽培ほ場

【短茎小ギク】 挿し芽(育苗):3月下旬、定植:4月下旬、収穫:7月下旬～

スーパーやホームセンター等の量販店で販売されている仏花やパック花向けの組花素材として、短茎に仕立てる「加工用切り花」、その中でも多く栽培されているのが黄色の小ギクで長さ45cmの仏花用です。現在、生花市場を通じて大阪の組花加工業者に供給されています。大変好評で供給が追いついておらず、さらなる増産を要望されています。



関西仏花



箱詰めされた短茎小ギク



短茎小ギク栽培ほ場

【リアトリス】 定植:11月中下旬、収穫6月中下旬～

槍のようなまっすぐな茎にたくさんの小花がつく草姿が特徴的で、主に生け花や装飾用の素材として使われています。特に、京都をはじめ近隣の府県は生け花が盛んで需要が大きい地域です。鮮やかな紫色の花は、仏花用の組花素材としても需要があります。東近江地域では導入が始まったばかりですが、大消費地に近いメリットを活かすべく、生産拡大をすすめています。



箱詰めされたリアトリス



リアトリス栽培ほ場

切り枝・切り花の栽培に御興味のある方は、当課まで御連絡ください！

東近江管内で「子実用とうもろこし」の栽培が始まっています！

飼料用とうもろこしは、これまでほぼ100%を輸入に頼っていましたが、コロナ禍等による影響で需要がひっ迫し、近年国内で生産が拡大しています。東近江管内でも昨年度から「子実用とうもろこし」の作付けが本格的に始まりました。



「子実用とうもろこし」の栽培メリット

① 省力生産が可能

稲・麦・大豆に比べて面積当たりの労働時間が少なく、時間あたりの所得が高い作物です。また、他作物と作期をずらすことで労働ピークの軽減・平準化も期待できます。



収穫作業時の様子

② 機械の汎用利用が可能

栽培に必要な作業機の多くが、麦・大豆や水稻乾田直播に必要な作業機と共通しており、土地利用型経営体にとって取り組みやすい品目です。

③ 後作物の生育改善

収穫残さのほ場すき込みによる土壌改善、輪作間隔の拡大による連作障害の緩和、根が深く入ることによる透水性改善などの効果によって、後作物の生育改善効果が期待出来ます。



輪作体系の一例

今後も当課では、販売先確保などの課題解決、面積拡大に向けた支援に取り組んでいきます。

中型野生獣電気柵「楽落(らくらく)くん」の紹介

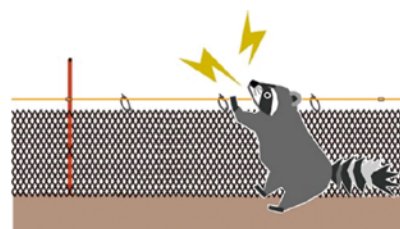
近年は鳥獣被害が年々増加しており、山間地だけでなく平坦地の露地野菜・ビニールハウスを加害するアライグマ・ハクビシン・タヌキ・アナグマなどの被害も報告されています。

このような中型野生獣から農作物を守る、簡易電気柵「楽落(らくらく)くん」を紹介します。

「楽落くん」が選ばれる3つの理由

① 中型動物の特性を活かした構造で効果がバツグン！

「登る」のが得意なアライグマやハクビシンに対して、絶妙な高さの柵で感電するように誘導する構造となっています。

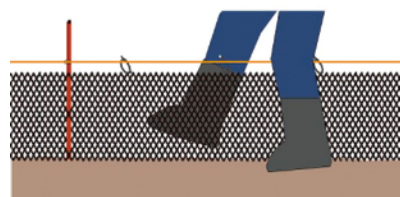


② 短時間で設置・移動が可能

短時間で簡単に設置・移動が出来るため、収穫する農作物に合わせて設置場所を簡単に変えることが出来ます。

③ 柵が低いため、田畑の出入りが楽々

通常の電気柵は1m程度の高さがありますが、「楽落くん」は高さ40cmのため、農作業の邪魔になりません。



「楽落くん」の設置に御興味のある方は、当課まで御連絡ください！